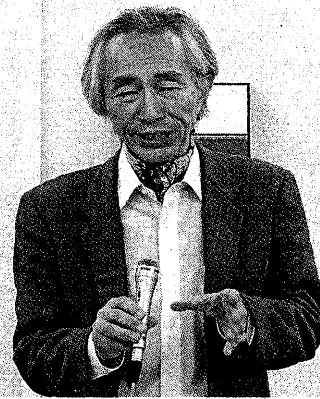


無人化施工

研究組合で技術開発

人力並み高精度目指す

世界最高水準の無人化施工技術の実用化を目指す、土木研究所や民間企業が集まって法人格を持つ技術研究組合を発足させた。先端技術を集め、災害対応などで人力作業と同等の精度を持つ無人化施工技術の研究開発を展開。女性の活用促進も視野にこの分野の人材育成にも力を入れる。



臨時総会であいさつする
油田理事長＝6日午後、
東京都港区の機械振興会館で

ゼネコンら19者が参画

発足したのは「次世代無人化施工技術研究組合」(UC-TECH)。税制優遇が受けられる技術研究組合法に基づいて10月2日に国土交通相から設立認可を取得し、同14日に法人の設立登記を行った。

理事長には油田信一芝浦工大特任教授が就任。理事には高田悦久鹿島土木管理本部副部長や大嶋匡博大成建設土木営業本部副部長、魚本健人土木研究所理事長らが就いた。

民間企業だけでつくる認可団体の建設無人化施工協会も同様の取り組みを行っているが、法人格を持つ組合なら国の支援を受けやすくなり、より高度な研究開発を行える

とみている。東京都内で6日開かれた臨時総会で油田理事長は「無人化施工は日本が世界に誇れる技術だ。災害対応などニーズに基づいて問題を解決する技術開発が世界的に求められている。ぜひ使いたいと思ってもらえる技術開発を進めていきたい」とあいさつした。

組合設立は、国内外の災害対応の現場により高度な無人化施工技術を導入するための研究開発の環境を充実させるのが狙いで、建設無人化施工協会に参画しているゼネコンなどが提唱していた。組合として初めて研究開発に取り組む技術が、台風や津波などで発生する浸水被害の応急復旧で活用できる不整地運搬車「クローラードンプ」。

開発に約2億円を投じる計画だ。将来は災害対応分野を中心に幅広い分野で新技術の研究開発に取り組む考え。建設機械の遠隔操作を行う技術者の育成にも力を入れ、女性技術者の活用機会の創出につなげる。

組合員は次の通り。

▽青木あすなろ建設▽大林組▽大本組▽鹿島▽熊谷組▽五洋建設▽大成建設▽西松建設▽フジタ▽前田建設▽IHⅠ▽アクティオ▽東京通信機▽中日本航空▽ニコン・トリンブル▽西尾レントオール▽先端建設技術センター▽土木研究所▽日本建設機械施工協会。

【建設ICT】

- | | | | |
|---------|--------|--------|----------------------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 事業
日刊
工海
日本 |
| 4. 読売 | 5. 朝日 | 6. 毎日 | |
| 7. 産経 | 8. 朝日 | 9. 毎日 | |
| 10. 中部経 | 11. 朝日 | 12. 毎日 | |
| 13. 建設通 | 14. 朝日 | 15. 毎日 | |
| 16. 建設工 | | | |

平成26年11月7日(朝)・夕) P1